

○富士塚 看板設置

・設置日

令和7年3月4日 下新倉氷川八幡神社富士塚

令和7年3月11日 白子熊野神社富士塚

浅久保浅間神社富士塚

・設置場所



下新倉八幡神社富士塚



白子熊野神社富士塚



浅久保浅間神社富士塚

・看板内容

市指定 民俗文化財

下新倉氷川八幡神社富士塚

指定 令和五年九月二十一日

下新倉氷川八幡神社富士塚は、市内に現存する三基の富士塚の一つである。富士塚とは、信仰の対象として富士山を模して人工的に構築された塚をいう。

この富士塚は、現存する石碑の銘文から明治三(一八七〇)年に丸吉講下新倉講社によって築造されたものであることが分かる。

山頂の神名碑や参道部に残る築山碑によると、この地には慶長年間から富士浅間神が祀られ、嘉永年間にその再建を経て、明治三(一八七〇)年に現在の富士塚が築造されたものと考えられる。

富士塚自体は非常に遺存状態が良く、築造当時の姿が良く残されている。

富士塚の現状の規模は、径がおおよそ一五メートルを測り、境内地からの比高はおおよそ三メートルである。

和光市教育委員会
和光市文化財保護委員会

市指定 民俗文化財

白子熊野神社富士塚



指定 令和五年九月二十一日

白子熊野神社富士塚は、市内に現存する三基の富士塚の一つである。富士塚とは、信仰の対象として富士山を模して人工的に構築された塚をいう。

この富士塚は、現存する石碑の銘文から明治三（一八七〇）年に丸瀧講白子講社によって築造されたものであることが分かる。

山頂には富士浅間大神の石祠が置かれ、軒には丸瀧講の講印が施されている。

白子熊野神社富士塚には、丸瀧講白子講社だけではなく、それ以外の講社によって造立された石造物も多数確認できることから、他地域との文化交流もうかがえる。

この富士塚は舌状台地の末端部を成型して構築されたものと考えられ、現状の規模は一辺約三〇メートルの方形で、高さはおおよそ一〇メートルを測り、県内でも最大級である。



和光市教育委員会
和光市文化財保護委員会

市指定 民俗文化財

浅久保浅間神社富士塚



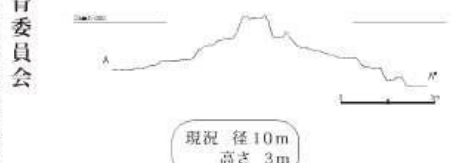
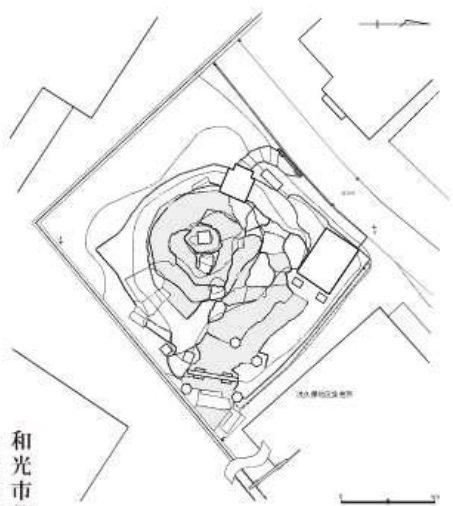
指定 令和五年九月二十一日

浅久保浅間神社富士塚は、市内に現存する三基の富士塚の一つである。富士塚とは、信仰の対象として富士山を模して人工的に構築された塚をいう。

この富士塚は、現存する石碑の銘文から少なくとも明治六（一八七三）年に丸吉講によって築造されたものと考えられ、昭和前期から中期に移築されたことがわかっている。そのため、現存する富士塚は信仰開始当初に築造されたものとは異なるが、多数の石造物が残り、当地の富士浅間信仰を知る上では貴重なものであるといえる。

また、下新倉氷川八幡神社に現存する富士塚には、その富士浅間信仰の始まりが慶長年間に遡ることが推測されており、浅久保浅間神社富士塚も同様にその信仰の起源が遡れる可能性がある。

富士塚の現状の規模は、径がおおよそ一〇メートルを測り、境内地からの比高はおおよそ三メートルである。



和光市教育委員会
和光市文化財保護委員会